

藝文やまなし



展示部会合同展



会員研修会

平成13年3月

Vol.4

CONTENTS

- 夢の実現.....2
- 山梨芸術文化協会 平成12年度総会.....3
- 山梨芸術文化協会 全体研修会3
- 部門報告.....4
- いんふおめーしょん.....7
- 賛助会員の紹介.....8

夢の実現



● 金井 昭堂

生年月日 昭和6年7月21日
経歴 昭和30年 徹墨会発足
昭和59年 毎日書道展審査員
平成元年 山梨書作家連盟設立
平成2年 山梨県書道会理事長就任
平成5年 個展
平成7年 サンパウロにて個展
平成8年 山頭火3人展
平成10年 山梨県芸術文化協会副会長就任

この度は山梨県文化賞文化功労者賞を頂き身に余る光栄と感謝いたしております。

この受賞も、共に活動してきた書道部門の仲間の方々と、陰に陽にわたり御指導頂いた先輩諸賢のバックアップと、山梨県芸術文化協会設立のため数々の御示唆を頂きお力添えを賜りました各ジャンルの先生方のお蔭だと思っております。これを機に山梨の芸術文化発展のために微力乍ら努めて参りたいと決意を新たにしておる所でございます。別して書道界のためには格段の努力を傾注して参りたいと存じます。

書の世界も、戦後の荒廃の中より立ちあがり、年々歳々新しい書活動が起り正に百花繚乱の観がいたしております。伝統的な漢字・かなの分野に新書芸と申しますか、近代詩文運動の成長と、字数の少ない中に芸術性を展開する少字数の世界・篆刻の世界から新しく刻字の世界が一つのジャンルを形成し、一連のアブストラクト・アート運動の影響で墨象の世界が生まれ育って来ました。そうした中で毎

日書道展として、漢字、かな、近代詩文、少字数書、篆刻、刻字、前衛の七部門展を展開して来たものが、或る日突然に首脳陣の対立から、読売書道展の誕生となり、二大書道展として月日が流れて参りました。

山梨では芸術祭の運営についても、荒井・佐藤両先生のご努力で、過去二つの会に分裂した歴史の修復が図られて来ました。その後、日中友好の機に山梨書作家連盟の誕生を、名取・伊藤先生の肝入りで図られ、今では各会、各流派の方々の結集の中で、県民文化祭の成功に向けて歩み寄りがなされて来ました。

書作家連盟も本年第三回展を六月に計画いたしております。四回展よりは種々の企画を加えまして、少壮作家展、中堅作家展、山梨三十人展、山梨女流作家展等々として趣きを変えて開催してみたいと思っております。

山梨は東京に近いところから中央依存の感を強く感じますが、山梨から全国に発信出来る展覧会を、書道活動を展開して行くことが私の夢と言ってよいと思います。これからはその夢の実現の為に努力を惜しまぬつもりであります。

山梨県芸術文化協会 副会長

金井 昭堂 氏

■表紙題字 金井 昭堂（書道部門長）

■表紙写真 平成12年11月22日～26日 合同展（県民ギャラリー）

平成13年2月24日 芸文協会員研修会全体会 講師 土屋 嘉男氏

山梨県芸術文化協会 平成12年度総会

平成13年2月24日甲府市総合市民会館において平成12年度総会が開催され、次のように平成13年度事業計画が承認されました。

1 やまなし県民文化祭開催への支援

やまなし県民文化祭へ、総合舞台・総合展示・部門別フェスティバルの核となり、立体的に参加する。

2 山梨芸術劇場の開催（県委託事業）……2,205千円

山梨芸術劇場として6公演を実施する。

開催にあたっては、山梨県から当協会が受託し、双方協議のうえ実施する。

実施にあたっては、県内小・中・高校、市町村、団体等から申請を受け、希望の演目に沿い公演団体と調整の上実施する。

3 芸術文化事業の後援

会員が実施する事業に対して、申請により後援名義の使用を認める。

4 芸術文化講習会の開催 ……788千円

指導者養成のため、講習会を6回実施する。

（各部門から実施希望による計画書の提出を受け、各部会で選考する。）

5 機関誌の発行 ……840千円

各芸術文化団体・市町村・小中高校・各公立文化施設・報道機関等への情報提供を行う。

年2回発行 1回発行部数 4,000部 A4全8ページ

6 新規加入者の促進

会員・賛助会員の拡大を図る。

7 指導者派遣事業 ……600千円

県民の芸術文化活動を支援し、芸術文化の振興を図るため、学校や市町村からの申請に基づき指導者の派遣を行う。

8 協定運営 ……179千円

●総会・理事会

本会の運営及び各種事業の計画・実施を行うため、必要に応じて随時開催する。

9 会員名簿の作成 ……70千円

会員名簿400部作成する。

10 会員研修会の開催 ……301千円

11 部会・部門会議 ……285千円

連携事業を図るため、部会及び部門会議を必要に応じて開催する。

山梨県芸術文化協会 全体研修会

「黒沢さんと七郎さん」

俳優 土屋 嘉男氏

私は、根っからの甲州人。芸文協が若い頃であれば、東京には行かずに入れてもらっていただろう。山梨に帰って嬉しいのは、甲州弁が聞けること。子守歌のようなもので、情感が伝わり大事にしている。

宮沢賢治は岩手弁を、そして七郎さんは甲州弁を平気で使っていた。僕もそうだし、黒沢さんも甲州弁が好きだった。撮影所では僕のことを「ささらほうさら」が来たなどと言った。

黒沢さんは家族同様。七郎さんは中学の先輩、面白い人でいつもつき合っていた。

（七郎さんのこと）

芸大バイオリン科に進みたかったが、戦時中で学生の募集なかった。親の勧めで、入営延期があった医学生となったが、戦争が終わったからやめた。トラック学校で知り合った石和のやくざの家で見せてもらったギターがきっかけで七郎さんのことを知り、交流が始まった。俳優になりたての頃だった。

塩山のむしろ敷きの七宝館が僕の映画のふるさと。活動大写真をよく見た。ある時「深沢七郎さんと長沢八郎の音楽の夕べ」という催しがあった。語呂の良さに惹かれて客がどんどん入ったが、クラシックを弾いたら皆怒ってしまい、歌謡曲を弾くために二人が楽譜を買いに出かけその間舞台が空になるという、何とも面白い出来事を覚えている。

「七人の侍」に出た頃には、撮影所に近い井の頭線沿いに下宿していた。駅への行き帰りにときどき聞こえてくる山梨弁につられて訪ねたら、七郎さんが真っ赤な顔で大の字に寝ころんでいた。

当時は、「楢山節考」で中央公論新人賞を取った頃で授賞

式の話しを聞いた。堅苦しいところは嫌いだったが、銭をくれると言うので出掛けていった。初めてスーツ・ネクタイを着て極度に緊張し、その後、一週間寝込んだという話だった。

七郎さんは、「土屋さんがくると甲州弁で喋れて嬉しいさー。」と言ってくれた。忘れ去られた甲州弁が七郎さんからほとんど出てくる。私も七郎さんといくと故郷に帰ったみたいになかった。山梨県人には特有のユーモアがあるが、故郷を離れている忘れてしまうようだ。

七郎さんは「僕の顔は黒沢明に似ているっっちゃうじゃねえか？」と嬉しそうな顔で言ったことがあるが、黒沢さんに憧れてたようだ。いつか二人を会わせたら、お互いに触発されて、ひと味変わった小説、映画を作っていたらうなど、今も後悔している。

（黒沢さんのこと）

黒沢さんとの出会いもその頃だった。

黒沢一家数人のうちの一番親分となり、後に居候もした。志村喬は、「おじちゃん」、三船敏郎は「三船ちゃん」と呼び、ことあるごとに家族同然に黒沢家に集まった。

黒沢映画の動の集大成は「七人の侍」、静の集大成は「赤ひげ」。私は、黒沢さんを代弁している役が多かった。よそでは、色々な役をしたが、黒沢映画では地味に徹していた。俳優の道で最後に到達するのは、そんな役のよう。俳優はそういう役に喜びを感じる。女優は汚れ役をやりたがる。

「七人の侍」は、いまだに国内一位の映画との評判だし、外国でも20世紀ベスト10に入っている。

黒沢さんは、外国では神様扱い。それは、今の映画の手法

は全部黒沢明がやりだしたことで、世界が黒沢に傾倒しているため。だから黒沢映画に出ていると外国では扱いが違う。

私が身内の立場から、黒沢さんについて本を書くことを約束したが、いつか書けばいいやと思っているうちに亡くなってしまい、慌てて取り組んで一周忌に届けた。馬鹿っ話だが、映画関係者には貴重な本らしい。

全米の映画ファンの集まりで、ゲスト講演したことあるが、目を輝かせて聞いていた。外国では昔のいい映画は、今も上映され語り継がれ、俳優にも興味をもっている。日本では、上映が終わると過去のものになる。黒沢さんは、そういった日本が嫌いだった。

黒沢さんは、黒沢天皇などと呼ばれていたが、話好きで、日々の生活の中にもそのやさしさ他人への配慮などが感じられた。また完璧主義者などと言われるが、それはマスコミの作り上げたもので、誰でもものを作るときはいい加減はいやで、完璧主義であると思う。

臨機応変で広いところがあるのに、なんでマスコミではあいうふうに言うのか。俳優たちの間にもそういったイメージがいきわたってしまった。私は、普通に接していたし、本当は、ハイドンのよう。わかりやすくして深いという意味で、私は、「パパ・ハイドン」と呼んでいた。黒沢さんも喜んでくれていた。
(文化講演の一部抜粋)

部 門 報 告

文学部門

芸術祭公募、50年を越える長い歴史の中、20世紀最後の、要項検討、8月メ切り、9月各選考新聞発表を経て、12月2日文学館に於て、表彰式、県民文芸の発行を見ました。

また研修会として、本年は俳句部門先導で12月9日、文学館研修室に於て、「これからの短詩形文学の行方」と題して、司会福田甲子雄。詩、笠井忠文。短歌、清水賢一。俳句、広瀬直人。川柳、鈴木東峰。の各氏を招いての講演質疑、180名を越す聴衆は立見席もでる程の盛り上がり、会場の狭さ時間の短さなど、初めてのこととはいえ、もう少し考慮の必要など、そのあとの委員会に於ての意見。部門事業としてまだよちよち歩き、情報ネット化の中の模索、考えねば、と。

茶道部門

茶道部門は、芸術祭の主催団体として認められ活動を始めて束の間、来年度は県民文化祭に移行するという事で大変複雑な思いです。

今年度の芸術祭は10月3日、総合女性センターに於いて五流派が最後の芸術祭という自覚を持って、例年にないレベルの高い内容豊かな茶会を開催しました。3月5日発表部会研修会で雛祭茶会を行い好評でした。又11月23、25日には、合同展の呈茶を各流の代表によって行いました。

茶道部門では今、県民文化祭のあり方について模索中です。茶道の特殊性からなかなかよい案が浮かんでまいりませんが、時流の中で、茶道が文化の向上に少しでも寄与出来ればと願っています。

書道部門

◎書作家連盟

●歳末助け会いチャリティ色紙展

開催日 平成12年11月30日(木)～12月5日(火)

場 所 山日YBS地下ホール 参加者 95名

◎県書道会

●県書道会展

開催日 平成12年12月7日(木)～12月12日(火)

場 所 県立美術館 作品数 376点

◎県書道協会

●第52回協会展

開催日 平成12年6月11日(日)～17(土)

場 所 県立美術館 作品数 一般110点・教育部1000点

●第35回研修会

開催日 平成12年8月5日(土)～7日(月)

場 所 甲府市御岳文芸座 参加者 110名

●第52回学生書道展併催会員展

開催日 平成12年12月14日(木)～19日(火)

場 所 県立美術館 作品数 学生1000点・会員75点

◎鷗盟社

●鷗盟社会員展

開催日 平成12年8月4日(木)～6日(日)

場 所 富士吉田市民会館 作品数 125点

●研修会

開催日 平成12年8月27日(日)

場 所 下吉田コミュニティセンター 参加者 50名

●刻字錬成会

開催日 平成13年2月12日(月)

場 所 下吉田コミュニティセンター 参加者 50名

写真部門

写真部門の今年度の活動は、各地の加入クラブの写真展が12回も開催され、例年にない活発な状況であった。また、芸文協指導者派遣事業においても、初心者を対象とした写真講座を3会場で行い、実技を含めた指導は好評であった。

一方、県芸術写真展の応募総数は、1,016点と昨年度を92点も上回る盛況であった。会期中に審査員を招き、「写真セミナー」を実施、更に地方巡回展を市川大門町と富士吉田市で開催するなど、充実した内容であった。

その他の活動としては、芝文協合同展に27点の自由作品を出展、更にフランス・マコン写真芸術国際展示会への出品など、国際友好交流にも一役かった一年であった。

華道部門

◎山梨県華道協会設立10周年記念展(第10回展)開催

開催日 平成12年4月14日(金)～19日(水)
会 場 甲府岡島百貨店7階特設会場
出瓶数 協会登録23流派・選抜会員342名、
322作品出瓶

◎山梨県華道協会平成12年度定例総会開催

開催日 平成12年4月16日(日) 午前10時
会 場 岡島ローヤル会館
出 席 会員代表150名(外委任状)

◎山梨県華道協会設立10周年記念式典・祝賀会開催

開催日 平成12年8月20日(日)

会 場 甲府富士屋ホテル

<式典>午前10時<祝賀会>午後1時

◎県情報プラザ1階ロビーいけばな展示奉仕

華道協会傘下の23流派により月2～3作品の展示を年間
通し実施

*平成12年度は華道協会設立10周年記念年度に当りましたので記念年度に相応しい事業展開をいたしました。記念華道展については展示会場を平年度展の倍に設営し、発表作品も各流派の伝統と次世紀への思いを込めた自由と飛躍に満ちた創作作品群による展覧作品の演出が効を奏し県内外の入場者に大好評を戴きました。

フラワーデザイン部門

フラワーデザイン部門本年は、会員相互の連携もスムーズになり、2グループの新入会もあり一歩前進の一年が送れました。会員の皆様の御協力に御礼申し上げます。夏には展示部会会員研修会として、甲府総合市民会館に於て、(社)日本フラワーデザイナー協会副理事長内山ゆり先生を講師に迎え、講演「花と共に時を重ねて」、講習会「花のアクセサリ」を開催、充実した一日が過ぎました。芸術祭部門展示会も昨年の反省点を専門委員全員で見つめ直し、展示・デモンストレーション共盛会に終了いたしました。展示部会合同展も15名が出品、実り多い一年が瞬く間に過ぎ新世紀を迎えました。会員の輪と心の豊かさを大切に新しい一年をと願いつつ。

音楽部門

会員は全員が現役。県内外、国外までも本年度も活発な演奏活動を行なってきました。芸文協関係の活動についてだけ書きます。山梨芸術劇場で山梨交響楽団が大和小学校で生徒と父母のための日曜学校、御坂東・西小学校での音楽会。甲府室内合奏団が身延東小学校での音楽会。それとマンドリン音楽連盟の春日居小学校での音楽会。次に、指導者派遣事業として、大目小学校、富浜中学校で下地啓二氏による器楽演奏。依田道彦氏が管楽器による合奏を勝沼小学校で、またシュネベルク四重奏団が中道南小学校、下和田小学校、沢松小学校、甲府看護専門学校など6公演。感想文集も頂きましたが、生演奏への喜びに溢れていました。市町村からの要請が少ないことが残念です。

合唱部門

第40回山梨県合唱祭(山梨県合唱連盟主催)

日 時 平成12年6月18日(日) 9:30～17:00
参 加 中学3・高校7・一般32・計42団体900名
場 所 白根桃源文化ホール

山梨県合唱講習会(山梨県合唱連盟主催)

日 時 平成12年7月20日(日) 10:00～15:30
場 所 県民文化ホールリハーサル室
講 師 清水雅彦 対 象 高校・大学・一般
参 加 110名

関東支部おとうさんコーラス山梨大会

日 時 平成12年8月6日(日) 10:00～17:30
参 加 山梨県より8団体出場700名参加
場 所 都留市文化ホール

第23回おかあさんコーラス関東大会

日 時 平成12年7月1日(土)～2日(日) 10:00～17:00
参 加 本県より9団体出場

場 所 浦和市文化ホール

第55回全日本合唱コンクール山梨大会

日 時 平成12年9月3日(日) 9:00～17:00
参 加 中学・高校・大学・一般 23団体
場 所 山梨県民文化ホール

第2回山梨県ヴォーカルアンサンブルコンテスト

日 時 平成13年2月18日(日) 10:00～18:30
参 加 45団体
場 所 荏苒市民文化ホール

第1回関東合唱祭出場

日 時 平成13年3月10日(日)
場 所 よこはま芸術劇場
参 加 山梨県より2団体出場(各県より2団体)

山梨県ママさんコーラス大会

日 時 平成12年11月23日(木)
場 所 県民文化ホール 小ホール
参 加 48団体

洋舞部門

若い会員に芸文協を知らせる活動を継続中

(1)部門総会を開き芸文協と部門の関連を話し合う。

(2)7月・12月・2月と年3回芸文協の議事内容の詳しい報告書を各自に送付した

(3)10月29日第53回県芸術祭に7作品が上演され1、2回とも満席の1,500名が来観した。

(4)第52回全国植樹祭創作ダンスを芸文協洋舞部門として出演をきめ名称も同じく統一した。現在鋭意猛練習中である。

邦楽部門

- 5月14日(日) 逸漣会創立八十周年初代家元17回忌追善演奏会 県民文化ホール
- 5月28日(日) 山梨三曲協会創立五十周年記念物故会員追善演奏会 県民文化ホール
- 7月2日(日) 竹の和尺八演奏会 県民文化ホール
- 10月8日(日) 山梨県藝術祭邦楽部門大公演会 県民文化ホール

10月18日(日) 山梨藝術劇場 梁川中学校

邦楽が中学で義務教育化されるのを前に体験学習により生徒に理解させる目的で行なわれた。三曲連名の諸先生が生徒・先生・父兄等に琴・三弦・尺八の演奏を聞かせ、又生徒達も楽器に取組み“さくら”を合奏することが出来た。有意義な一時であり、これが今後の邦楽発展につながることを願っている。

民謡民舞部門

●会員研修会

平成12年10月8日北公民館で奈良田盆唄とエンサーの踊りを芸文協加入団体(踊り4団体)が地元保存会有志6名を講師として招き実技の研修会を開いた。奈良田には、このほか麦塙唄や追分節が伝承されており貴重な民謡の温存地帯である。当日は楽しくこの2曲の踊りを勉強することが出来た。

●芸術文化講演会

平成13年1月21日甲府市総合市民会館で民俗音楽学会の講師2名を招き本県の代表的民謡である武田節、縁故節の歴史を勉強した。その結果武田節は3種類作られ現在歌われているものは3番目の歌であること、そして御坂町に記念碑があることもわかった。また縁故節は島原の子守唄に類似しているが歴史的には縁故節が200余年来馬鈴薯の歌として歌われているのに対し、島原の子守唄は昭和30年に作られた個人的な歌であることが判明し自信を深めた。

吟剣詩舞道部門

◎第50回全国吟剣詩舞コンクール山梨県大会を次のとおり開催し、各部門の代表を選出して東日本地区大会に派遣した。

第1会場 4月23日(日) 山梨県農業共済会館

合吟・連吟・独吟・一般2部

第2会場 5月28日(日) 甲府市総合市民会館芸術ホール

独吟一般1・3部、剣詩舞

第3会場 9月24日(日)(午前中) JA会館

少壮吟詠家の部

◎吟詠研修会

日時・場所 9月24日(日)(午後) JA会館

講師 工藤龍堂先生(財団常任理事)

◎第33回全国吟剣詩舞道大会参加

日時・場所 11月12日(日) 日本武道館

参加 150名出演した。

◎山梨県芸術祭参加第53回吟剣詩舞道大会

日時・場所 12月3日(日) 甲府市総合市民会館芸術ホール

内容 所属36団体から約800人参加し吟詠、剣詩舞、企画構成吟詠等を発表した。

演劇部門

日頃見る(知る)機会の少ない舞台裏を探検する舞台裏講座を、演劇人集団シアター21とリンクして共催で実施。

日時 平成12年6月25日(日)

場所 双葉ふれあい文化館

内容 ワークショップ(実技編)、講演「舞台裏冒

険」舞台裏探検隊の3部構成で行った。

講師 舞台美術家 高田一郎氏他

参加者 協会員・舞台関係者、一般80名参加

朗読部門

朗読部門は、2000年の第2回講演が、芸術祭としては最後の公演となりました。

前年度の成果と教訓を受け継いで、準備と取り組みを行ない、応募者数・内容ともいっそう充実しました。

県内6市と6郡(9町1村)から31組(45人)の応募がありました。

公演出演者は、このうち4市3郡(5町1村)から13組(14人)でした。

朗読・語りの技を大いに楽しんでいたかと思います。

来年度はよりいっそう工夫と努力を重ねて県民文化祭にふさわしい朗読公演にしたいと思っています。

また今回は「総合舞台」に参加し、朗読部門単独では味わえない大きな舞台の経験が出来ました。関係各位に心から感謝いたします。

日舞部門

一年を通し必要ある毎に部門役員会を開き、芸文協の会議内容等の伝達、意義ある文化活動の参加について等、話しあって参りました。十月の部門別公演につきましても、県芸術祭の名称最後と云う事で、会員に呼びかけ無事舞台をつとめさせて頂きました。又芸術祭にしては客動員が素晴らしいと云う一般評価を頂き、やはり心を一つにして努力した成果と思いました。

毎年の事でありあまり派手には出来なくても参加に意義を感じて居ります。

共催事業

第53回山梨県芸術祭共催事業

山梨県芸術文化協会展示部会合同展

美術・書道・写真・華道・フラワーデザインの展示5部門の融合した展示に、茶席と邦楽の演奏の場をもうけ、芸術文化の鑑賞に合わせ、訪れた方々の心にゆとりが生まれる空間を創造しました。

開催日 平成12年11月22日(水)～26日(日)

午前10時～午後5時まで

場所 県民会館地下展覧会場

県民情報プラザ地下展覧会場

展示数 美術24点・書道54点・写真27点・華道23点
フラワーデザイン15点・茶道6人・邦楽4人

いんふおめーしょん 芸術文化協会会員活動紹介

文 学

◎同人誌懇談会からのお知らせ

同人誌懇話会では、年間2回、前期後期と合評会を行なっております。

●世話人会

日 程：平成13年4月21日(土) 午後1:30～

場 所：甲府市社会教育センター

●合評会

日 程：平成13年6月17日(日) 午後1:30～4:00

場 所：甲府市社会教育センター

▶問い合わせ先 事務局055-235-3265(清水保野)

◎詩誌草炎よりお知らせ

詩誌草炎では去る2月8日、第15号(村松英特集)を刊行しました。現在同人17名、詩、エッセイ、評論、民話等に取り組んでいます。年2回の発刊を続けていて、次号は七月末日を予定しています。

あわせて同人研修会を年2回、詩誌草炎の発行日に開催、自作品の朗読から同人による合評、懇談等、和やかにを行っています。(わたなべ政之助)

◎「昴」(こだま) 38号5月刊行予定

新型「坊っちゃん」だといわれる「ぼくのささやかな体験」(依田茂夫)若い日の失恋をなぜと問う「黒い花びら」後(日野四郎)交通事故後の生死の境彷徨と「TTと分明」のゆくえを考え合わせる(樋口信)作品ほか。読んでみようという方は下記まで連絡を。ぜひ読後感、読後評などもお寄せ下さい。

〒404-0043 塩山市下於曽424-1(古明地義勇)

◎文芸誌『趣味』原稿募集中!

私たちの文芸誌『趣味』では、常時原稿募集中です。来年1月発行の第14号に掲載されるためには、本年10月中旬までに、ご投稿願います。掲載されるためには、3000円手数料を頂きます。応募資格は不問です。思い思いに書いた原稿を下記にお送り下さい。

〒400-0034 石和町唐柏523-4

植松正幸宛(文芸誌『趣味』編集発行人)

◎「せんだん」からのお知らせ

初心者のための小説の勉強会。毎月1回月曜日の午前10時から午前中。冊誌は年1回出しています。主体は小説ですが、エッセイでもということです。

指導者は県芸術祭の小説部門選者、牧宏先生です。

▶問い合わせ先 事務局055-235-3265(清水保野)

◎IT時代の企画

今年あらたに三人の文学希望者が入会した。将来が楽しめる若者たちである。そんなことで、2・3の会員を除いてほとんどがパソコン原稿となった。嬉しいことだが足並みの乱れを感じる。そこで考えたのが、毎月の作品合評会のあと、パソコン教室を開くことだった。効果は靚面で、どうにか足並みが揃った。これに気を良くし、五月の親睦旅行はITの先進地を視察することに決めた。(「作家」山梨地区支部長 原田重三)

音 楽

◎詩人 堀内幸枝の世界

日 程：平成13年4月14日(土)

(1部)13:00開演 (2部)15:00開演

場 所：カルチャースペースあんさんぶる

(石和町上平井451-4) TEL055-262-0326

主 催：堀内幸枝桃の花会(山梨)

出 演：(1部)歌曲研究会「Bell a voce」神宮寺淑子、金森静子他

竜王女声合唱団「コーロ・フロレ」他

入場料：2000円(一部、二部共通)

◎帰国記念 赤池昌枝ソプラノ・リサイタル

平成13年3月ルーマニアヤシ国立歌劇場にソリストとして召喚され出演。その帰国記念リサイタル。

日 程：平成13年9月2日(日) 午後5時開演

場 所：甲府市総合市民会館・芸術ホール

入場料：2,800円

▶問い合わせ先 055-233-7751(赤池)

◎山梨交響楽団よりお知らせ

●第28回定期演奏会

日 程：6月23日(土) 午後6:30開演

場 所：県民文化ホール・大ホール

内 容：モーツァルトドンジョバンニ序曲 他

入場料：一般1000円学生700円

●美術館サマーコンサート

日 程：平成13年8月18日(土) 7:00開演

◎ふるさわなつき主催 第45回若草会記念発表会

日 程：平成13年7月15日(日) 午後1:30

場 所：シティプラザホテル紫玉苑

内 容：特別演奏(歌、ピアノ、その他)予定しています。

書 道

◎書道部門よりお知らせ

- 第50回玄遠展
日 程：平成13年6月9日(土)～15日(金) (県立美術館)
- 第3回山梨県書作家連盟展
日 程：平成13年6月23日(土)～29日(金) (県立美術館)
- 第53回県書道協会展 (主催/県書道協会)
日 程：平成13年6月16日(土)～22日(金) (県立美術館)
- 第36回夏季研修会 (主催/県書道協会)
日 程：平成13年8月4日(土)～6日(月)
場 所：甲府市御岳文芸座
- 鷗盟社展 (主催/鷗盟社)
日 程：平成13年8月8日(水)～12日(日)
場 所：富士吉田市民会館
- 研修会 (主催/鷗盟社)
日 程：平成13年8月19日(日)
場 所：下吉田コミュニティセンター

バ レ エ

◎足立バレエ・ダンスコンサート2001

足立四津子、演出、振付、監修による全プログラムオリジナル作品。

『ガラスノフ、フウィート』『彩のパラード』『鳥・夢はてしなく翔ぶ』など多数。出演は日本を代表する舞踊手や芸文協会会員を含む100名。

日 程：平成13年4月30日(月) 午後1:30～

場 所：県民文化ホール・大ホール

▶問い合わせ先 055-252-6296

◎第24回 三井京子バレエ研究所発表会

日 程：平成13年7月1日(日)

開 演：11:30、16:30 (2回公演)

場 所：山梨県民文化ホール・小ホール

内 容：ジゼル全幕 バレエコンサート小品集

▶問い合わせ先 055-222-3015 (三井京子バレエ研究所)

華 道

◎山梨県華道協会よりお知らせ

- 第11回山梨県華道協会展
日 程：平成13年4月13日(金)～18日(水)
場 所：甲府市岡島百貨店7階特設催事場
- 平成13年度山梨県華道協会定例総会
日 程：平成13年4月15日(日) 午前10時
場 所：甲府市岡島ローヤル会館8階

美 術

◎峡北美術協会よりお知らせ

- 第55回記念峡北美術協会展
日 程：平成13年5月5日(土)～11日(金)
場 所：山梨県立美術館 出品点数 約80点
- 春季写生会
日 程：平成13年5月27日(日)
場 所：日野春駅前「志満屋」拠点に

◎第64回山梨美術協会展

日 程：平成13年7月3日(火)～11日(水) ※休館日9日(月)
場 所：山梨県立美術館・一般展示室
内 容：油彩、水彩、版画、日本画、彫刻、工芸の6部門による、会員、会友、及び一般入選作品の展示

- 一般作品公募について
作品搬入：6月30日(土) 午前10:00～午後4:30
場 所：山梨県立美術館・作品搬入口
※詳細は5月にできます公募要項をご覧ください。

◎青樹会よりお知らせ

- 創立45周年記念 第45回青樹展
日 程：平成13年8月9日(木)～15日(水)
場 所：山梨県立美術館・一般展示A・B室
- 創立45周年記念 青樹会画集の発行

写 真

◎山梨県写真団体連絡協議会よりお知らせ

- 甲府市文化協会写真部委員展
日 程：6月上旬 (日は未定)
場 所：甲府市社会教育センター
- 富士吉田写真連盟モデル撮影会展
日 程：平成13年7月21日(土)～7月24日(火)
場 所：富士吉田市民会館
- 山梨写真研究会創立50周年記念展
日 程：平成13年8月21日(火)～8月26日(日)
場 所：山梨県立美術館一般展示室

太 鼓

◎「世界平和太鼓」展示のお知らせ

「世界平和太鼓」という世界一の太鼓が、笹一酒造株式会社に展示しております。目で見て楽しみ、太鼓を打って、からだで体験してみてください。

毎週日曜日の午後2時・3時・4時に演奏しておりますので、ぜひご覧下さい。(紅富士太鼓 会長 石岡博実)

賛助会員の紹介

平成13年3月31日現在

アドアートイシカワ/甲府市相生2-8-15 (株)石川工務所/塩山市上於曾1990 菊岡まつ乃/昭和町清水新居1512
機山堂/甲府市中央4-9-20 (社団法人) 県歯科医師会/甲府市大手1-4-1 清水印刷/甲府市住吉1-12-11
シュエネベルク四重奏団/長坂町白井沢847 (株)タイムバック/甲府市池田1-8-23 チャコット(株)/東京都世田谷区池尻3-30-12
内藤楽器(株)/甲府市大里町2195 中込電気商会/甲府市丸の内2-4-20 中沢久雄/上野原町上野原5959 西山巖/甲府市千塚1-5-27
藤原整形外科/甲府市武田3-3-9 フラワーアーティスト協会/甲府市宮前町1-3-113 山梨県吟剣詩舞道総連盟/甲府市富士見2-2-5

芸文やまなし表紙募集 芸文やまなしVol.5の表紙を募集しています。ふるってご応募ください。

■事務局 山梨県 企画県民局 生涯学習文化課 芸術文化担当

〒400-8501 甲府市丸の内1-6-1 TEL 055-223-1797 FAX 055-223-1322